

平成 25 年度 自己評価表

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

| | | | |
|---------------------------|---|----------------------|--|
| <p>中長期目標 (学校ビジョン)</p> | <p>キャリア教育に重点を置き、地域の中で職業的に自立するとともに、主体的に活動、社会参加し、社会に貢献できる人を育成する。そのために、学校生活の基礎基本を確立し、主体的に活動しようとする意欲を育てる。</p> | <p>今年度の 重点目標</p> | <p>○基礎基本の確立と、意欲の涵養 ○社会人としての基礎力の育成 ○熱意と工夫を持った新しい学校の創造</p> |
|---------------------------|---|----------------------|--|

| 年 度 当 初 | | 評 価 結 果 10月 | | | | | | | |
|---------------|-----------|---------------------------|---|---|--|--|--|--|--|
| 評価項目 | 評価の具体項目 | 現状 | 目標(年度末の目指す姿) | 目標達成のための方策 | 経過・達成状況 | 評価 | 改善方策 | | |
| 基礎基本の確立・意欲の涵養 | 教務部 | ○年間指導計画の見直し修正及び次年度の計画の作成 | ○計画を実践に移す段階でありすべての面で検証が必要である。 | ○継続した週案の作成及び活用ができています。 | ○週案の活用状況の分析と活用方法の周知 | 9月末は未入力もあったが毎週ほぼ入力されており計画的に指導計画が立てられていた。 | B | 実施した内容についての整理を行い次年度指導計画の参考にする。 | |
| | | | | ○年間指導計画の修正と来年度分の整備が完了している。 | ○今年度分の使用状況分析の実施 | 前期の内容を年計に沿って実施し修正を加え、来年度計画の資料とした。 | C | | |
| | 学年部 | ○挨拶の励行 | ○挨拶をしようとする生徒が増えつつある。 | ○100%の生徒が朝の挨拶を自分からしている。 | ○学年スローガン等による意識付けと教員の見本 ○行事の目的、スケジュール、ふりかえりなどの伝え方の工夫と、行事終了後のアンケートの実施 | 朝の挨拶を自分からする生徒が校内実習前後で増えたが、夏季休業後減り、半分以下になっている。 | C | ○現場実習に向けて、挨拶練習、事前学習やSHRで進んで挨拶を行うことの大切さの指導、教員の挨拶励行等の実施。 | |
| | | ○生徒の意欲を育てる行事の企画 | ○やる気は感じるものの損得感情が先に来る生徒が多い。 | ○5割以上の生徒が行事(宿泊学習、宿泊訓練、現場実習、学校祭等)の達成感を感じている。 | ○行事の目的、スケジュール、ふりかえりなどの伝え方の工夫と、行事終了後のアンケートの実施 | 前期行事について、達成感を感じた生徒が宿泊学習で69%、校内実習で60%、5校交流75%、宿泊訓練64%であった。大会に向けて練習を十分にを行い、結果の出た5校交流に達成感を感じた生徒が多かった。 | A | ○事前学習の取り方(まとめ取り)の工夫、丁寧な目標設定の取組、ふりかえりの工夫を実施。 | |
| | | ○大阪府立たまがわ高等支援学校との交流 | ○自分の将来像、学校像をイメージできにくい。学校生活を創り出すイメージを持たせたい。 | ○参加生徒が交流に満足し、先輩像をイメージできている。 | ○事後アンケートの実施。事前事後指導の充実 | 交流に向けて、事前打ち合わせで10月初旬に訪問予定。 | | | ○連絡を密にして、計画的に進める。 |
| | 生徒指導部 | ○生徒指導体制の確立 | ○不登校や障がい等によって、自己肯定感が十分育っていないが、入学を契機に自分を变えようと考えている生徒が多い。 | ○基本的生活習慣の定着と規律あるいじめのない集団作りができています。 | ○生徒指導体制及び生徒心得の職員間の共通理解と一貫した指導の実践 ○いじめ、学校生活に関するアンケート調査の実施 | 全体計画の立案や生徒指導体制や生徒会等の組織の立ち上げができた。いじめのアンケートはHyperQ-U等を実施。 | C | 全体計画に基づいた教職員の共通理解の推進。計画的な活動の実施による組織の活性化。観察やアンケートからの課題の発見と、共通理解に基づいた対応や支援の実施。 | |
| | | ○学校生活に主体的に取り組む生徒の組織作り | | ○生徒会・委員会・部活動が立ち上がっている。 ○生徒会・委員会活動へ意欲的に参加している。 | ○生徒との話し合いによる生徒会・委員会・部活動の立ち上げ、組織作り(前期) ○生徒の話し合いによる生徒会活動・委員会活動・部活動の企画立案と実践(後期) | | (前期) A (後期) | 生徒会、委員会、部活動は予定より早く立ち上がり活動をスタートできた。後期は活動の推進を図る。 | |
| | | ○県内4養護学校との交流によるリーダー育成(前期) | | | ○生徒8名の参加と事後の満足度や学校での取り組みについてのアンケート調査の実施 | 夏期休業中のリーダー育成研修会の実施と生徒の満足度調査の実施。 | A | | |
| | 社会人基礎力の育成 | 寮務部 | ○心身ともに健康で安全な生活ができる生徒の育成 | ○健康診断の結果から、基本的な衛生習慣が確立していない生徒が多い。 ○入学前に不登校経験生徒が5名 | ○インフルエンザ等の集団感染を起こさない。 ○長期欠席者をださない。 | ○健康観察の充実、日常的な手洗いの励行、咳エチケットにより感染拡大を防ぐ ○スクールカウンセラー、生徒指導部、担任、養護教諭等との連携 | ・不登校生徒に関しては、関係者(校内関係者・保護者・SC・主治医等)と連携を取りながら指導・支援の成果が見られつつある。 ・生徒の日常の健康観察については、生徒情報共有で共通理解を図った。 ・外部講師による性教育は計画通りに進んでい | B | ・学校保健委員会の立ち上げを検討中。 ・生徒保健委員会を巻き込んで衛生習慣の定着を図る。 |
| | | | ○寄宿舎生活マイスター制度の確立 | ○寄宿舎生活のきまりを説明、指導している段階。きまりを意識して守ることは、よりよい生活につながるということに気づいて欲しい。 | ○寄宿舎生が生活マイスター制度を理解して生活している。 | ○寄宿舎マイスター制度の整備 ○マイスターについて生徒の理解、意欲を促す工夫 | マイスターを導入する前段階として、毎週水曜日に生活チェックを行い、寄宿舎での生活で守って欲しいルールやマナーなどの徹底を図った。生徒によってルールやマナーを守る意識は様々であるが、集団での生活を意識できるようになってきている。マイスター制度は、10月から実施する。 | C | 10月よりマイスター制度を導入することで、生徒の自己管理能力の育成を図る指導を行なっていきたい。また、継続して寄宿舎での生活ルールを守ることを指導していきたい。 |
| | 進路指導部 | | ○生徒、保護者の実態、ニーズに沿った現場実習の運営 | ○企業開拓はある程度できているが、生徒の実態、ニーズとのマッチングができていない。 ○生徒が勤労についてのイメージがなく、明確な進路希望を持っていない。 | ○生徒の実態、ニーズに沿った企業の開拓ができています。 (新規実習受入可能企業東中部各20社、西部30社) ○生徒の実態把握ができています。生徒が就労のイメージを具体化できている。 | ○外部向け現場実習実施要項、実習依頼のちらしの作成・配布。 ○各圏域就労サポーターとの連携 ○進路部による個別面談の実施により、生徒の実態、進路希望の把握。 | 県内各関係機関、関係者との連携において若干連携の取りにくさはあるものの、10月実習先をすべて決定することができた。 (10月実習先：東部9社、中部9社、西部15社) | C | 県内各就労サポーター、ナカボツ、ハローワークとこまめに連絡を取り合い連携を深めていく。 |
| | | | ○企業に向けての学校PR活動(就労促進セミナーの開催) | ○昨年度は就労セミナーの宣伝活動が不十分であった ○参加企業より「毎年同じことでは」との意見があった。 | ○東部10社、中西部各20社以上の企業が参加し、半数以上から高評価を得る。 ○企業とのネットワーク作りの基盤ができています。 | ○倉吉養護学校、産業人材育成センター及び企業関係者と連携した実行委員会の立ち上げ。セミナーの内容について新たな企画の取組。 ○月1回の実行委員会の実施 | 実行委員会に企業関係者にも入っていただいたことで特別講演、トークセッションなど新たな取組を加えることができた。また、労働局をとおして企業向けの発信を依頼できた。 | B | 各企業への発信を労働局からハローワークをとおして行い、併せて各就労サポーター及び進路担当からも発信を行っていく。今年度の実績をまとめ来年度の実施に活かしていく。 |

様式 2

| | | | | | | | | |
|--------------|-----------|----------------------|---|--|--|--|---------------------------------|--|
| 新しい学校の 創造 | 地域 支援部 | ○入学者選抜に関する取組のシステムづくり | ○入学選抜に向けての手續が十分周知できていない。学校説明会や体験入学、相談会などのシステムを明確にし、中学校等にわかりやすく情報提供する必要がある。 | ○選抜までの流れを整理し、積極的でわかりやすい情報提供ができています。(志願者相談会の参加者60人以上) | ○校内外に取組の内容が伝わるよう、文書やホームページ等で情報発信を行う。 ○学校説明会、体験入学、志願者相談会、生徒対象説明会をスケジュールに沿って開催する。 | 入学者選抜に向けての取組をスケジュール通りに実施し、志願者対象相談会は66名の参加があった。 | A | 一つ一つの取組は各中学校等に伝わってきているが、年間を見通した進路指導の流れや、生徒のニーズに合わせた進路決定について、更なる情報発信が必要であり、生徒対象相談会の機会を利用して、教員と保護者向けの研修会を開催する。 |
| | 総務部 | ○校外に向けた積極的な情報発信 | ○開校後の取組状況について、学校関係者、地域、企業などに対して積極的な情報発信が必要である。 ○学校の取組への支援者(企業や地域住民など)を増やし、教育活動を充実させたい。 | ○保護者、関係者の7割以上が情報提供に満足している。 | ○学校公開、学校説明会、学校HP、学校通信の充実。 ○満足度アンケートの実施 | 積極的な情報発信はしているものの、内容の吟味や発信方法の検討はできておらず、今後の課題。 | C | 学校公開日などを利用して、HPや通信についてのアンケートを実施し、内容の検討に生かす。 |
| | | ○地域(鳴り石の浜プロジェクト)連携 | ○鳴り石の浜チャレンジプロジェクト関係の事業について参加生徒・関係者の8割以上が満足感を感じている。 | ○専門教科の実習、生徒会関係の行事など、積極的に地域に学習の場を設定。 | 地域連携を学習の場とすることに意識して取り組んでいるが、計画的な取り組みになっていない。 | C | 連携活動を継続しながら、連携の目的、内容について精査していく。 | |

評価基準 A: 十分達成 [100%] B: 概ね達成 [80%程度] C: 変化の兆し [60%程度] D: まだ不十分 [40%程度] E: 目標・方策の見直し [30%以下]